

# 本 賞



写真家・(株)アフロ代表取締役  
青木 紘二氏

富山県魚津市生まれ。終世、写真が一番の趣味であった父より10歳のころから写真を教わり暗室に入ったりしていた。

'68～70年、スイス游学。哲学、宗教を学ぶ。その間、冬季はスキー場でアルバイトしながらスキー技術の習得に努める。'73スイス連邦国家公認正スキー教師の資格を取得。'70～74スキー教師として活動。

'76海外の知識と語学力を生かしてフリーカメラマンとして活動開始。'76～78年主に旅行代理店や旅行雑誌の撮影に従事。広告系の撮影に加えて'79年スキー、ゴルフをはじめとしたスポーツ写真の撮影を始める。

1980年、広告を主体とした写真エージェント株式会社「アフロ」設立。

1997年、1998年「長野冬季オリンピック」の公式写真エージェントにアフロが選任されフォトチーフとして活動。

2011年、2012年オランダに本拠地を置く世界報道写真コンテストでスポーツ部門主任審査員を務める。

2012年～2015年 筑波大学、立教大学等の非常勤講師を務める。

2017年 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会フォトチーフに就任。

ライフワークとしては「The Open」全英ゴルフは1984年から継続して撮影。

JOC認定「公式オリンピック写真集」は1998年長野大会よりオリンピックごとに編集・発刊。

オリンピック撮影は2018年平昌オリンピックまでで18回を数える。

## < 受賞歴 >

- 1998年 SSF世界スポーツフォトコンテスト BEST WOMEN PHOTOGRAPH 受賞
- 2000年 講談社 週刊現代 ドキュメント写真大賞スポーツ部門 受賞
- 2005年 毎日新聞 広告デザイン賞『最高賞』 受賞  
読売新聞広告大賞写真展『選考委員特別賞』  
朝日新聞『準朝日広告賞』  
日本新聞協会『新聞広告賞』  
消費者のためになった広告コンクール『金賞』
- 2008年 第59回全国カレンダー BEST100に選ばれる
- 2016年 国際スポーツプレス協会 (AIPS) よりオリンピック取材歴により記念アワードを受賞
- 2017年 国際スキー連盟より国際スキー連盟アワードを受賞。クリスタルトロフィーをいただく



## < 社 歴 >

- 1980年 広告を主体とした写真エージェント「株式会社アフロ」設立
- 1992年 スポーツを中心とした出版系写真部門設立
- 1997年 スポーツ写真撮影部門「アフロスポーツ」設立
- 2000年 広告撮影部門「アフロディーテ」設立
- 2003年 デジタルイメージング部「アフロビジョン」設立
- 2010年 レンタルスタジオ「アフロスタジオ」設立
- 2011年 写真家を対象としたプリント写真工房「アフロアトリエ」設立
- 2011年 年賀葉書用コンテンツを中心としたグリーティングカードコンテンツ販売「アフロモール」設立
- 2012年 海外撮影グローバル部門「アフログローバル」設立



## 特別賞



美谷珠算教室

美谷 美智子 氏

昭和14年生まれの80歳。魚津市中央通りで美谷珠算教室を開く。

24歳の時、結婚を機に故郷の黒部市宇奈月町浦山から移り住む。教え始めた当時は、1956年の魚津大火の焼け跡に立つバラック小屋の8畳1間だったそうです。既に中学2年の時から近所の子どもたちにそろばんを教えており、魚津市にいられてから教え子は約2,500人を数え、珠算能力検定で最難関である1級満点合格者を10人近くも輩出されました。

「読み書き、そろばん」が当たり前だった昔と違うとはいえ、富山県は習い事としてのそろばんが盛んな土地柄。人口10万人当たりのそろばん教室は、富山が19.6人で全国トップとなっている。集中力や精神力を養うことができるとして根強い人気があり、子どもの計数感覚を育み、脳の発達を促すとして海外でも注目されている。

それでも時代の波とともに生徒の減少に頭を悩ませる美谷さんだが、2019年春からは保育園でも指導を始めた。

「もっともっとたくさんの子どもたちを教えたい」とますます元気でられます。



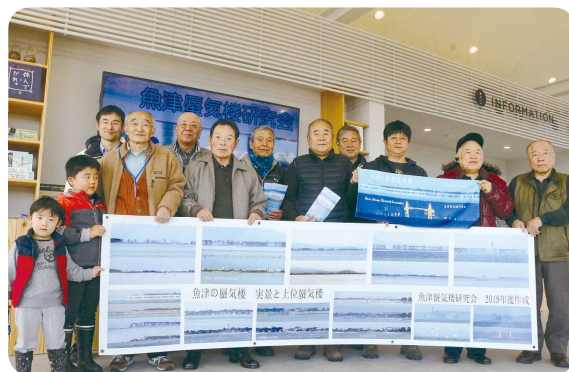
# 地域社会賞

## 魚津蜃気楼研究会

1992年、蜃気楼を撮影していた8人で結成しました。現在の会員数は22人で、魚津市の海の駅・蜃気楼そばの展望地で、訪れた観光客や市民に蜃気楼のメカニズム等を解説しています。

蜃気楼は、普段の景色を知らないと発生しても分かりにくいことがあり、実景と発生中の様子を写真で紹介した横断幕を独自に作り、シーズン中、展望地に掲げています。会員が撮影した自慢の写真を満載したパンフレットも作り、訪れた人に配っています。魚津埋没林博物館を中心に写真展も積極的に開いており、蜃気楼の景勝地としての認知度向上と、富山県や魚津市への観光客誘客に大きく貢献されておられます。

戦国武将の上杉謙信も見たと伝えられる魚津の蜃気楼。2019年には「魚津浦の蜃気楼」が国登録記念物（名勝地関係）となることが決まり、気象に関する名勝地関係の登録は全国初となりました。更に認知度が全国的に高まることになり、研究会メンバーの活躍が尚一層の期待をされています。







## 地域社会賞

川城カラオケ一座 代表  
川 城 一 彦 氏

会社を定年退職された後、それまで趣味であったカラオケと絵画に力を入れるようになりました。

20年程前にNHKののど自慢富山大会に出場され見事優勝されました。また、入善町で行われた津村謙歌謡ショーでも優勝されました。その他の歌謡大会にも出場され、活躍が続くと色々な所から「うちでも歌ってください」との声が掛かるようになり、出前講演を数多くされています。

入善町の老人福祉施設寿楽苑には、10年以上にわたり歌いに行っておられます。金さん銀さんにも10年以上、黒部市民病院にも行っておられます。又、絵画の方もコンクール等で賞をとられた作品を展示会等に貸し出したりしておられます。

今後も川城カラオケ一座の益々楽しい企画で継続されるようご期待されています。





## 地域社会賞

チャリティーコンサート 主催者  
水島芳子氏

水島芳子さんは、「がんばれ東北コンサート」を2012年に富山市、13年に太閤山ランドで知人の演奏家らの協力を得て開催しました。

また、2015年に東日本大震災の被災者を支援しようと有志で実行委員会を作り5月23日に朝日町なないろKANでチャリティーコンサート「ピースフル・ライブ」を開催。

水島さん2011年3月の震災時、魚津市の新川学びの森天神山交流館に勤務。

宿泊施設を備える交流館は宮城県や福島県で被災したり、原発事故から逃れたりした人の受け入れ先となりました。

水島さんは、1ヵ月半で十数世帯30~40人の被災者を世話し、仕事の後でも悩みを聞いたり、子どもの遊び相手になったりして、その中から家族を守り抜こうとする姿にふれ、命の大切さや人間の強さを実感したということです。

初めに受け入れた宮城県石巻市の家族とは、今も交流しています。

その後、朝日町役場に勤務し、2017年に糸魚川駅北大火被災地チャリティーコンサート「Peaceful Live 2017」、CHIKOさんのライブ等を開催。

2019年、朝日町役場を退職しましたが9月に南米音楽グループ「WAYNO」、10月には東京等で活躍する“中山うり”さんのライブをプロデュース。

このあともチャリティーライブを企画しておられます。



## 奨励賞



ウェイトリフティング選手

村上 英士朗 選手

村上英士朗さんは現在24歳。滑川高校を卒業後、日本大学に進学。黒部市の銀盤酒造に入社しながら競技を続け、社会人1年目の平成30年度には全日本選手権、国民体育大会、全日本社会人大会で優勝するなど3冠を達成しました。

また、令和元年には全日本選手権でスナッチ188kg、クリーン&ジャークで226kgを上げ、日本新記録を樹立し優勝。また、東京オリンピックのテストイベントである日中韓3か国のフレンドシップ大会でも、さらにクリーン&ジャークの記録を227kgに伸ばし、優勝。さらに世界選手権では日本人で初めてクリーン&ジャークで230kgを上げ、日本記録を再び更新するなど、現在、日本のウェイトリフティング界で最も成長著しい選手として注目されています。

今年は、長年お世話になった銀盤酒造を円満退社し（予定）、フリーとなって競技に専念、東京オリンピックとその4年後のパリオリンピックにむけて、さらに健闘が期待されています。





## 奨励賞



合唱指導者

三井 香さん

長年にわたり合唱指導者として地域の音楽文化、音楽教育に携わっておられます。

NHK学校音楽コンクールなどで優秀校を輩出している福島県郡山市の生まれで、武蔵野音楽大学音楽学部声楽課を卒業後、結婚を機に黒部市に在住。

1991～2012年、「黒部で第九を歌う会」の合唱指導に当たるとともに、事務局も務め、「第九を歌う会」の実績づくりに貢献されました。また1996年、黒部市国際文化センター（コラーレ）の開館と同時に「コラーレ・ココロ合唱隊」の指導に18年間当たったほか、地域の小中学校で音楽教育にも携わっておられ、2002年から、は女性コーラスグループ「カンターレ」を、2013年からは昼間のクラス「カロラッチョ」を主宰し、市民に広く合唱の喜びを伝えています。

2019年に、10周年を迎えた「宇奈月モーツァルト音楽祭」で毎年演奏しているモーツァルト「レクイエム」や、2020年4月公演のブラームス「ドイツ・レクイエム」でも精力的に指導に当たっており、地域に大きく貢献しておられます。

5年前の北陸新幹線開業記念の「煌めきプロジェクト」に参加し、同曲の合唱指導も行っており、音楽を通しての地域文化の振興に大きな役割を果たされていました。



# 青少年育成賞

## 経田小学校 潮風ボランティア

校区の海岸である、経田浜の清掃を行っているのが、魚津市経田小学校「潮風ボランティア」の児童の皆さんです。

この活動は「自分たちのふるさとの美しい海を守りたい」という、児童たちの郷土愛に根ざし、豊かに育む体験の場として、1998年に始まりました。今年で22年目になる歴史と伝統のある地域の奉仕活動です。

児童から参加を募る形で、保護者や同校を卒業した中学生も協力しています。清掃活動は、年に4回で、昨年度の第1回目は、5月11日（土）に実施、約60名が参加し、経田浜のごみを回収しました。

学校によると、爽やかな海風に吹かれてみんなでごみを拾うと海岸がきれいになり、素敵な笑顔が広がったということです。

自然環境を意識したこの活動は、未来に続く活動になりますよう期待します。





# 新人賞



小学生陸上競技選手

田中結衣さん

田中結衣さんは、富山県予選を勝ち抜き、昨年8月10日に行われた日清食品カップ第35回全国小学生陸上競技交流会で、女子コンバインドB(走り幅跳び、ジャベリックボール投げ)において、全国の強豪選手を抑え、見事優勝されました。

全国大会での成績が自己ベストを大幅に更新し、快挙を達成した田中さんは、「緊張しませんでした、たくさん友達が出来て楽しかったです」と明るく笑顔で話されました。

技術、体力だけではなく、メンタルの強さも際立ち、これからの活躍に期待が集まる逸材で、今後の成長を期待いたします。

